

就職日誌

<内定先>

業種：金融業

選考方法：会社説明会、エントリーシート、面接（、インターンシップ、社員との交流イベント）

<就職活動の流れ>

2014年8月

- ・金融業界1社の1day インターンに参加
- ・人材サービス業の会社のインターンに応募するも、事前面接で落選
- ・インターン応募にあたって OpenES を書く

2015年1～2月

- ・就活サイトを中心に情報収集
 - …エントリーする企業をピックアップする、それぞれの企業の情報収集
- ・社会に出た先輩、知り合いの大人の人に就活するにあたって大事なこと、経験談等、たくさん話を聞き、自分が就活をしていく上で何を大切にして選考に臨みたいか、準備する
- ・自己分析を、書籍を利用して進める
- ・他己分析を、友人に依頼してやってもらう
- ・就活用の証明写真を、生協のやつに申し込んで撮影してもらう（メンズプラン 6000 円程度）
- ・金融業1社の2day インターンに参加

2015年3月

- ・エントリー開始（マイナビ、リクナビ、日経就職ナビ）メインで使ったのはリクナビ
- ・必要に応じて、Twitter・Facebook 等でも気になる業界、企業をフォローし、情報を得やすくする
- ・前半は学内、学外の合同企業説明会に全力で参加

- ・業界は金融系を中心だが、他にも運輸、インフラ、情報通信、化粧品等、興味があったものは説明会に行ける範囲で行けるだけ行った
- ・企業の情報は、事前に調べられたもの以外、合同説明会で初めて知る企業も多々あったため、同時並行で企業研究、業界研究をしていく
- ・後半は企業の個別説明会、各企業が主催するセミナー・ワークショップ・先輩社員との座談会等に参加（～5月）

2015年4月

- ・テストセンター（主にSPI3）対策
- ・一次選考スタート
- ・エントリーシート記入

2015年5月

- ・面接、グループディスカッション本格化
- ・個別説明会、セミナー等への参加を受けて、選考を進めたい企業、業界を絞っていく
- ・第一希望の企業の最終面接で合格

2015年6月

- ・第一希望の企業の内々定はもらったが他の企業の選考も一応進める

2015年8月

- ・内々定社懇親会の出席をもって就職活動をやめる

<就活を振り返って>

- ・出費について

スーツ、コート等服装に関しては3年次のまちづくり提案の際に購入。自分の活動範囲は仙台・東京がメインだったので、それぞれへの交通費がかかった。トータルすると10万円は超えていたと思う。学割で切符をかったり、春休み中

は青春18切符をフル活用、幕張メッセで行われるような大きめの合同説明会は宇大から、もしくは宇都宮から、無料バスが出ていたりするので、それを有効活用した。

- ・アルバイトについて

アルバイトは就活がスタートしてからは週1くらいでやっていたが、途中でバイト先の都合で辞めざるをえなくなってしまい、それ以降はアルバイトはやっていない。

- ・就活全体を通して

自分たちの年度の就職活動から3月スタートになったため、採用企業にとっても、就活生にとっても、手探りの就職活動だったように感じた。企業によって採用のスタンスが様々で、たくさん情報収集をしないと状況がつかめないとこも珍しくなかった。就活を進めていく上で情報収集は必然とすることになるが、その収集した情報の管理、整理をしておくことが非常に大事。

同じく、スケジュール管理も重要で、合同企業説明会、個別説明会、各企業主催のセミナー、ワークショップ、座談会の日程はもちろんのこと、**それらのイベントに参加するための申し込み開始日時**も把握しておかなければいけない。説明会の申し込みは5分くらい前からパソコン前にスタンバイしておかなくちゃいけなくて、これは実に戦いであった。記入項目を入力するために、タイピングも練習しておくことと安心感が高まることは請け合いだ。

就活の日程は後ろ倒しになったと言え、実際には「面談」といった表現で、実質「面接」等の選考がどんどん進んで行く。本格的に選考に臨みたい企業が固まってきたら、OB訪問や知り合いの先輩等にアポをとって、相談、就活スケジュールなどの細かい話を聞いたりすると効果的だ。

説明会やセミナーなど、企業の人事担当者と話す機会がある場合には積極的に質問をしていくことを強くお勧めする。人事の印象に残すという意図もあるが、それ以上に、自分の中で質問を考え、それを直接企業の担当者から回答をもらうというのは勉強になり実りが大きい。

就活の時期は、業界を問わず企業について知ることができるチャンスの時期である。視野を狭めすぎるのはその機会がもったいないし、準備を怠ることもチャンスを逸してしまうことにつながるのでこれもまたもったいない。内定が

出るまでは心休まることがないという一面もあるが、普通の大学でしている勉強とは違った勉強ができ、やりようによってはとても面白い。楽しめるだけ楽しめれば、生き生きとした態度にもつながるし、実に好循環である。ぜひとも後輩諸君には就活というイベントを楽しみつつ戦い抜いてほしい。